

雑 録

色彩と感情

菅原教造氏は十二日夜の精神病科談話會に於て『色彩感情』と題し大要左の如き談話をなしたり

▲王朝時代は紫の流行 東洋と、西洋とはは色彩的感想は大体に於て略々一致してゐる、先日本の色彩と感情について少し調べた處をいふと西洋では紫を一般に排斥してゐるが日本では昔から愛してゐる殊に王朝の藤原時代の如きは其時代の人情風俗を寫したといふ『源氏物語』をみても人の名であれば紫の上とが卷の名であれば若紫とか此の外巻中に『紫』といふ文字は移しく用ひられ下ある或は其時代の文學を代表した萬葉集などの歌をみて、『紫』にはへるいもをにくいあればとか『紫の一本ゆるに武藏野の』とかいふ紫の桃詞を冠せたものが非常にある語を換へていへば此時代は紫時代である

▲演劇と色彩 けれども日本の文學で紫は無論こゝ、其他の色彩を衣服等でよくみる事の出来るのは昔の芝居一番だ繼いで其時代の芝居を書いた錦繪などであらう同じ芝居でも今の新派劇などになると時代の色彩が寫實してゐやうけれど人物と色彩といふ對照に構はないやうだ此點に於て舊劇は非常に進歩して居る

▲性格と色彩の調和 かの忠臣藏の芝居に例の大星由良の助が放蕩三昧に日を送つて居る時にはばやけた弱々しい色の衣服を着て出るが念々打入りといふ時には元氣のある質素などつしりした威

嚴のある黒ずんだ其本心を表した衣裳を着るなどは新派劇にみられない性格と色彩の調和であり五代目菊五郎は若い時の狂言に青いくじ引を髪にかけて出る處其れが妙に音羽屋の役と調和し遂には此流行が江戸中の頭を青くしたと迄いはれ其れが梅幸色といふものになつた、又千代萩の政岡が赤い着物を着るといふのは威嚴があつて非常によいやうだ處がいまは無地色で感思ばかりを傳へやうとしてゐる

▲團十郎の暫く、『暫く』をやる團十郎が柿色三升の衣裳を着るが市川家の遠い藝風をよく色に表はしてよい、中村芝翫が田舎娘に扮するにいやしげな福助色の衣裳を着たり又は同じ好みの上下をつけるのがよく似合、絲のくすんだ色になると侍の性格と調和してどことなく強みがあるに音羽屋の色になるとつしりした力ない代りまつぱりした色で同人が早野勘平を勤むる時などは大にふさはしい

▲幽霊と灰色 不安の色だといふ紫は日本の女性のやさしい處をよく表はし芝居では悉く其通りに用ゐられ又一位の袍はに定つて居るかといふやうに高い意味にも用ゐられてゐる、黒は優美な紫と反對に雄大で正しくて威があるやうにみえる處から多くは武士だとか俠客だとか轉じては石川五右衛門のやうな盜賊にも用ゐられてゐる是は暗く隠れて夜を意味する方面から用ゐるのだらう又幽霊などの服装に白を用ゐずに灰色を用ゐるのはあまりばつとさせない爲と暗の色とや、同じくさせざる爲でよく幽霊の出る墓地などに近い寺院の僧侶が此色の服を纏ふのも實は調和から來たものであらう

▲色彩と快樂の關係 以上性格と服裝の關係の原理上色彩は何故

に我々人間に愉快であるか又總ての色の中に或る特殊の色は何故人間に愉快であるかといふに第一の原因は進化論の方から第二の原因は聯想から第三の原因は生理學上最近の說からどうであると思ふ

▲色彩の聯想 文科大學の心理學實驗室にては色彩の表情性研究の爲同學生百二十三人は總て二十四種から成る色紙の小片を答案紙に附して與へ其聯想を書かした大要は左の通りである

赤色に關する聯想

幼稚、可憐者、親和、輕薄、陽氣、愛情、性慾、快活、浮華、熱烈、危險、艶、誠心、偉大、クリストの降誕、強力、壓迫、恐怖、禪趣、原始時代、平安時代、源平時代、十字、ナイト、マホメット、日蓮秀吉、闇より出でし天照大神宮、現代の獨逸、四十代の人、程よき音、喧噪なる音、大太鼓、

橙色に關する聯想

安靜、陽氣、野卑、清爽、半秘、陽氣、支那風の佛蘭の夢、崇重、濛宿、元氣、沈着、江戸時代、近代朝鮮、マホメット、不動明王、ハイカラ女、日本人、快活の音、氣ぬけ香水病院、響柑、文科の旗、日没、書籍、土色、鹽煮餅、リボン、

黄色に關する聯想

無情、輕快、不足、平凡、薄弱、厭世、悲哀、崇高、人の運命、元祿時代、趣味なき時代、小兎、オルガン、花の香、日没、公孫樹、コレラの旗、目白、

紫色に關する聯想

高尚、優美、永遠、神聖、夢裡の天國、江戸氣質、性慾、莊嚴、王朝、神女、コプシの多賀子、紫式部、清少納言、柔、曲線、スミレ、

白色に關する聯想

清淨潔白、寂寞、不安、無邪氣、美人、醫者、幽靈、光、又、豆腐の味

灰色に關する聯想

不確定、厭世、酒脱、納豆賣のよぼく、老婆、北極の海岸に蒼白き顔して海面を見つむる讀經派の厭世哲學者、焼ける魚、鬼、低音

黑色に關する聯想

現代のロシア、崇高、罪惡、寂寞、惡魔、葬儀、迷宮、

牡丹色に關する聯想

華美、高尚、優美、毒、無氣力、南阿、情人、寛度、

緑色に關する聯想

幼稚、陽氣、希望、勢力、慰安、明治時代、虫聲、土佐濱の松、波形、

青色に關する聯想

沈みたる活動、凄愴、秋、ネルソン、東郷大將、胡弓、創立ての顔、酸、大、高、還、環、

▲女子大學生と色彩 以上に對する女子大學生が宿題として與へられたものと同じく答へた中の面白いのは赤色のパイロン、清盛、若い奥様、美少年、誠、黄色の高慢、虛榮、現世的の人、月黄昏、縁の改進、清涼、新生命、哲學、楊貴妃、陣太鼓、沈思の幽玄、不變化、男精の大國、殿様、葬式、のラツパ、紫の上織、高尚、情熱の極、愛、浦島太郎、クレチバトラ一休、元祿時代の町家の娘、おしやれ女、淺草公園、三味線、白色の高天原、キリスト、神祕、清潔、むくの少女、灰色の僧服、冬の空、ソクラテス、孔子、古寺のひまぐ木魚の音、黒の天災のひびき、威力、古英雄、默考、寂寞、愛、末亡人になどでありませう

(報知)

## 珍らしき新遊戯

近頃英佛より米國に渡り來りたる一種の玩具あり其名を佛蘭西にてデアアホロ、英國にてロリオットと云ふ佛國に於ける其起源に近來のことなりと雖も其流行の盛にして往々通行人を驚くることあるが故に狹隘なる街衢にては之が使用を禁止したりといふ此の玩具今を去る數百年前支那に流行したりといふ玩具の本體は二つの獨樂を合せたるが如きものにして中は空虚なり併し中央の細まりたる所を支へて兩端正しく中心を失はざるやう作り置くと第一の必要なり扱之を弄ばんとするには兩手に各二呎許りの竹棒若しくは木棒を持ち其兩端の間に繋かりたる絲の上にデアアホロの胴中を乗せ右手の棒をば幾度かまし上げるなり斯くする時はデアアホロ自ら絲上に回轉し始む可きが故に今度はデアアホロヲ空中高く抛上げて其落下し來るを絲にて首尾克く受止ることを試みる可し其法は右手を高く捧げ其の棒に近き絲上に於てデアアホロを受止め初の廻し掛の如く又々幾度か絲をしゃくりてデアアホロの廻轉を強め更に空中に抛上ぐるといふ趣向なり但し二人以上相寄りて互に抛上げては抛り返すが如きは最も興ありといふ尤も『惡魔の遊び』と名詮自稱の如く熟練するまでには餘程の苦心を要すとあり

(時事)

## ●女子教育と國俗

(菊池男爵)

英國の女子教育は近年に及びて長足の進歩を來たし、今日にては大學を卒業して、文藝の教師などを勤めてゐる女子が澤山あります加之近來は女子が男子と等しく諸會社銀行其他に就職するやうになり、職業問題に就て既に男女の競争が始まつて居るといふ有様であります。所が英國は古來女子を尊敬する國風であります故

に女子の意志が中々強くて常に男子に負けて居りません▲かく女子の教育が進み、それ／＼に職業を得て獨立するといふ事になると從來此國の美風なりし家庭の状態が大變動を來す、さらぬだに男子にても生活の困難なる爲めに獨身の多きを來し、近來は男世帯の貧長屋的の家屋が倫敦市中に大分多くなつた有様であるのに、一方に於てかく女子の獨立着を生じて、之が職業上には男子と競争し、又自然獨身で多く世を送る所より家庭の温き情といふものを味ふといふことが少ないことゝなつては、そこに甚だ好ましくない影響を來すのであります。▲固より我國從來の如く一徹に女子を卑み、妻君は給金なしの下女也と心得る如きは、甚だ好ましからぬ風習である故に女子にも相應の教育を施し、之をして家庭を掌る一家の主婦として立派に生長せしめ、夫妻心を合せて一家の幸福を増進し延いて國家社會の進歩を補はせるやうにせればならぬ事であるけれども、若し女子は男子と分じく單に之を教育すれば可なりといつて毫も國風俗の如何を顧みぬ時には、必ず將來大なる弊害を貽すことゝなるであらうと思ふ、

(弘道百八十八號)

## ●音樂は世界語

(湯原音樂校長)

▲音樂は非常に速なる傳播力を有す東京にて新たに流行したる俗謡が數月を出でずして北海道の果より臺灣の果まで普及せらるゝことは屢々吾人の實驗する所なりアウエルバハ氏曰く「音樂は唯一の世界語なり此世界語は毫も翻譯の勞を要せず其は音樂は人の心より心に語るものなればなり」と誠に穿てるの言といふべし既に斯の如き急速なる傳播力を有する音樂は又其人心に興ふる感化も極めて大なるべきこと言を俟たず彼の微妙なる音樂が忽ち人

の悪心を翻さしめ又淫靡なる音楽が一世を擧げて墮落せしめたるの例は古來枚舉に遑あらず音楽教育の忽にすべからざるを見るべし

(東京朝日新聞)

●婦人の忍耐 (浮田和民氏)

我國の婦人の地位未だ男子に及ばざる故は今日までの社會が大に婦人の利益を屈ふるの機會に乏しかりし爲め「出來ぬもの」と見くびられしに由るべけれど今や我國も諸國秩序的に發達し男女力を協はせて働くの時機に際せり戰爭政治等社會の大局に當るには武力と体力とを有せざるべからずこれ男子の爲すべき務めにしてこれを爲し得たれば逆男子は婦人に對して威張るの權利なし一長一短はあり婦人には外征、政略の事には不適當なるべけれど又男子の有せざるものを有す可は忍耐なりこの忍耐は 婦人に賦與せる約束にして育児家政の如きは永久と不變とを第一とし一朝一夕の事にあらず功名の忽なる男子先天的になし得ざるところ殊に看護慰安これ等の優美なる人情の發現は婦人が將來實業競争の滔舞臺に立ちて男子と双々相待ちて功を成さざる可からざるものにて其業の大小貴賤ある可らず社會に對し天地に對して女子は男子の内助をなし男子は女子の忍耐に學び二個相集まりて完全なる文明の事業を爲し果さざる可らず (東洋婦人會席上演説)

●最高の理想は母 (速水滌氏)

女子が高等教育の結果母たることを冷淡に考へると云ふやうな者が非常に多くなるに從て其結果は或は女子が男子と同じやうな性質となる、自分の利己心を満足せしめると云ふやうなことに傾く、で男子からしては奢侈虚飾とか云ふやうなことを要求するやうになつて非常に傲慢になつて來ると云ふやうなことがある

或は又失望の結果として男子の愛を得やうと云ふやうな念が無くなつてしまつて智識の方向に非常な欲望を感じてさうして男子と同じやうな功名心を満足せしめやうと云ふ考で科擧であるとか、或は宗教であるとか云ふやうなものに熱中して來ると云ふやうな者がある或は又其反對に創意的の生活を送つて宗教の偏信家となつて非常に頑固の宗教信者と云ふやうな者になる。そう云ふ色々な宜しくない結果が起つて來る近來亞米利加之女子などに就て觀察して見ると此青春期の際に腦力が發達して來る爲に幾分墮落の傾向が出來て來るやうに思ふ。即ち結婚しない場合には非常に身体が衰弱して來る、或は倦怠して來る生活に對しても非常に目的の無い不満を懷くやうになる。或は趣味であるとか好奇心であるとか減小して謂はば放縱に流れるとか、其氣質が非常に怒り易くなるとかさう云ふ傾向があるやうに思ふ。聖母のマリヤの尊敬せしめる一點は詰り最も婦人的である最もよく母たるに云ふ點に於て重んずらるるのであつて、男子と比較して愛情に富み、憐愍の情に深く、無慾にして獻身的に、直覺に秀でた特性を具へて婦人の光榮を發揮したと云ふがためである。是が則ち婦人の理想である。決して藝術家となり、辨論家となり、若くは教授其他の専門家となること云ふことが婦人の實い所以でない、母たり妻たりと云ふことが婦人の最高の理想でなければならぬ(教育學術界十六ノ二)